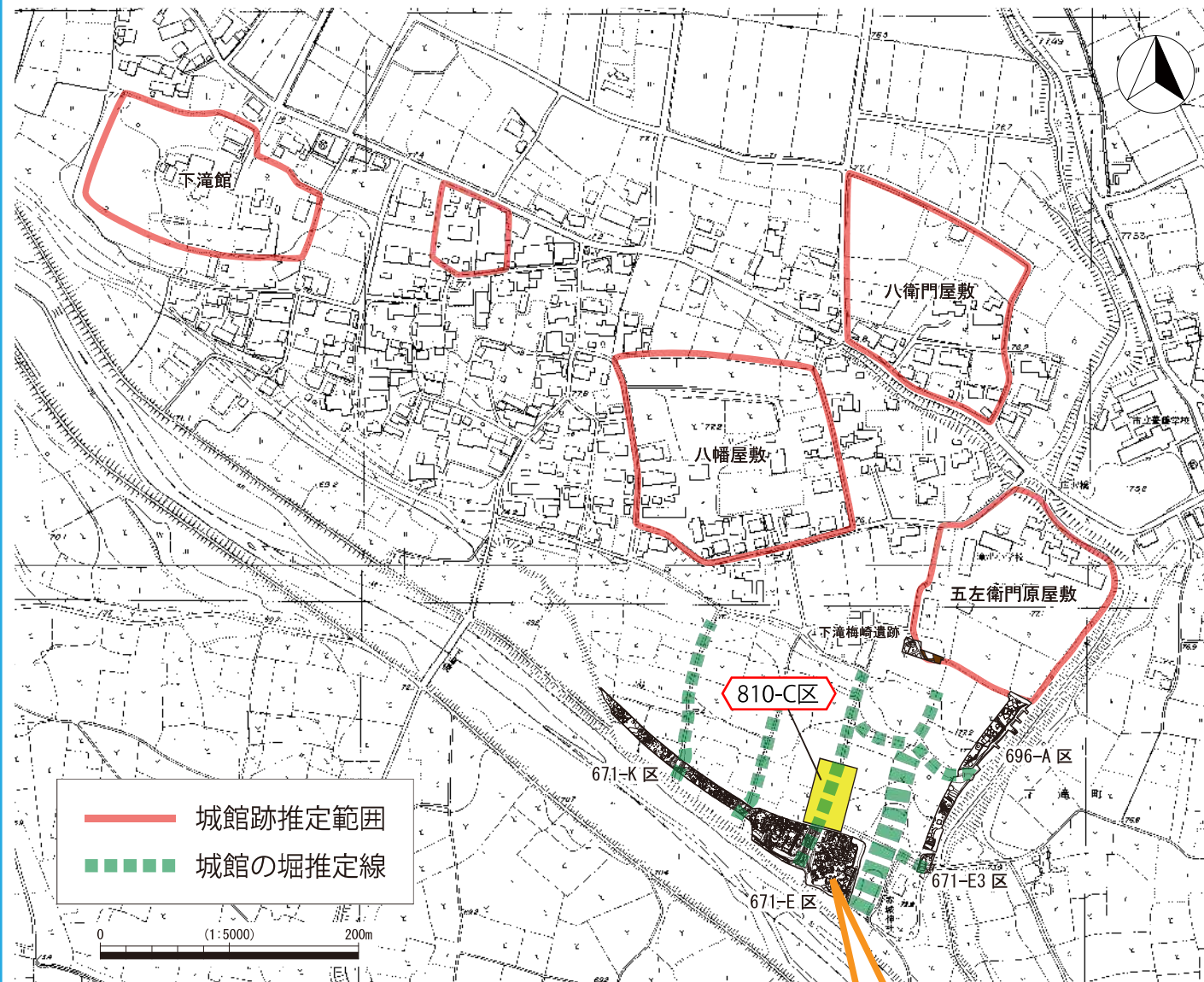


トピックス：調査区周辺の中世城館跡



調査区周辺の中世城館跡 (S=1/5000)

810-C区の周辺では、多くの中世城館跡の存在が定されています。特に「下滝館」については文明九（1477）年に古河公方足利成氏こがこうほうあしかがしげうじが滝・島名に「滝の陣」を敷いた際に、本陣として機能していたという見解もあります。当時、滝・島名の近辺には八千人にも及ぶ兵が半年にわたって駐留していたとも言われ、その規模を考えると、今回の調査も含めてこれまで確認された城館跡についても、「滝の陣」に関連した施設である可能性も十分考えられます。



令和3年度 下滝遺跡群発掘調査 現地説明会資料
編集・発行 高崎市教育委員会文化財保護課
発行日：令和3年8月12日
住 所：高崎市高松町35-1
TEL：027-321-1292（直通）

※遺跡・遺構についての見解は現時点でのものです。今後の整理・分析によって評価が変更される場合もあります。

令和3年8月12日（木）
高崎市教育委員会

しもたき い せきぐん 令和3年度 下滝遺跡群発掘調査 現地説明会

高崎市教育委員会では、高崎スマートIC産業団地造成事業に伴い、平成26年度から綿貫・下滝遺跡群の発掘調査を行っております。このうち下滝遺跡群の発掘調査では、古墳時代前期から平安時代にかけてのたてあなじゆうきよ竪穴住居跡や水路跡、中世のじょうかん城館跡などが発見されています。

下滝遺跡群は、事業地内のうち井野川の左岸エリアに分布する遺跡群となっています。令和3年度は、主に国道354号線周辺の工場建設予定地などを対象として調査を行っています。発見された主な遺構は、古墳時代前期～後期および平安時代の竪穴住居跡であり、これまでの発見総数は1000軒以上となります。今回現地説明会を行う調査区（810-C区）でも同様の集落跡が発見されており、50軒以上の竪穴住居跡が確認されています。面積は狭いながらも非常に多くの竪穴住居跡が密集している様子がうかがえます。この他に、中世（15～16世紀頃）の大規模な堀や井戸も確認され、過去の調査も踏まえると大規模な城館が営まれていたと考えられます。



令和3年度下滝遺跡群調査地点および周辺の状況 (S=1/5000)

令和3年度 下滝遺跡群810-C区の発掘調査状況

★奈良時代の竪穴住居跡

一辺5m以上になる、この調査区の中では比較的大型の竪穴住居跡です。8世紀頃のものと思われる多数の土器や鉄製品が出土しました。

★調査の概要

810-C区の調査では、竪穴住居跡が50軒以上発見されています。そしてそのほとんどが同じ場所に重複するように建てられており、この場所にこだわって人々が住み続けた様子がうかがえます。住居の時期は古墳時代中期～後期（5～6世紀）、奈良時代（8世紀）、平安時代（9～10世紀）のものが中心となっています。また、中世（15～16世紀）の堀や井戸も多く発見されており、城館を構成する遺構であると考えられます。

★中世の堀

調査区の中央に南北方向の大規模な堀が掘削されており、調査区南側の調整池築造に伴う発掘調査において、井野川まで掘り抜かれていることが確認されています。調査区の北端では、土を掘り残すことによって土橋^{どばし}を構築している状況が確認できました。

その他にも細い堀がめぐらされており、これらについても城館の郭を形成する堀であると考えられます。

★中世の井戸

井戸と考えられる遺構が多数確認されており、調査面から2m以上掘削されるものもあります。また、底面に石を敷き、「かわらけ」と呼ばれる素焼きの土器が多数出土している特徴的な井戸も見受けられます。

★平安時代の竪穴住居跡

この調査区では最も新しい段階（10世紀後半頃）の竪穴住居跡で、カマドの周辺からは須恵器^{すえき}の埴^{わん}などが多数出土しました。



810-C区 垂直写真（右が北）